令和2年度　能美市立粟生小学校　学校評価

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取組状況（中間評価）	評価	今後に向けて	取組状況（最終評価）	評価	来年度に向けて
1	組織的な学校運営	【活気あふれる組織作り】 一人一人がチーム粟生の一員として、ビジョンを受けた目標を明確にし、かつ職務を遂行し研修を通して教師力を向上させる	教頭	〈努力指標〉 教師一人一人が目標達成のため具体的方策を設定し、実践する。	実践していた （教師アンケート） A：100% B：90%	教師アンケート100%一人ひとりがめあてを持ち、具体的な方策を意識できている。	A	面談等を通して、校長ビジョンの具現化に向けた取組の検証を行う。	教師アンケート94%ほとんどの教師ができているが、不安に感じる人もいるためチームとして向上していく必要がある。	A	・チーム学校として一人ひとりの専門性がより生かされ、意欲的に取り組める組織づくりをしていく。 ・学力向上ロードマップの見直しを今年度中に進め、より実効性のある内容を検討する。 ・月2回の定時退校は定着してきた。行事、日程の調整、業務の見直し、取組の共通行動を引き続き行う。
		【取組の連携】 学力向上ロードマップを用い、PDCAサイクルを実働させる。	各主任	〈成果指標〉 定期的に主任会議を開催し、具体的な取組を共通理解し、共通行動に取り組む。	実働していた （教師アンケート） A：毎回できた（100%） B：ほぼできた（95%）	教師アンケート100%その都度確認しながら共通理解、共通行動はできているが、ロードマップのPDCAサイクルが不十分	A	主任会と分掌部会や学年会がより組織的に行えるよう、職員会議の場を全体でロードマップの検証が行える機会とし、PDCAサイクルを回していく。	教師アンケート94%主任会と各部会は組織的な連携がされている。職員会議での検証も定着し、改善につながった。	A	
		【働き方改革】 働き方を見直し、勤務時間短縮に向けて努力する	教頭	〈努力指標〉 月2回の定時退校日に加え、各自が自主的な早期退校日を計画的にとる等目標達成のための工夫をする	勤務時間の短縮ができた （教師アンケート） A：十分できた（100%） B：できた（90%）	教師アンケート88%職時間外勤務時間は昨年度から比べ減少している。学校が再開された6月が7月で目標達成に至らなかった。	C	職員への声かけ、効率化、問題の未然防止につながる問題の共有、早期解決に努める。	教師アンケート100%業務改革が行われ、行事が削減している中、限られた時間の中でどうしていくかの意識が高まった。	A	
2	知（学校大好き）	【授業改善】 既習を活かしたことを実感できる授業を行う	学習指導	〈努力指標〉 既習を活かして考えを持たせることを意識できたか（時間の確保と手立て）	実践していた （教師アンケート） A：十分できた（90%以上） B：できた（80%以上）	教師アンケート100%内、あてはまる56%、まあまああてはまる44%。児童も90%ができていると回答。教師の意識が児童も意識につながっている。	A	「あてはまるの割合」を増やす。教材研究を学年で行うする際には、何が「既習」となるのか、確認する。帯タイムで既習にあたる内容の復習を行う。	教師アンケートあてはまる75%、まあまああてはまる25%、あまりあてはまらない6%。児童も89%が肯定的な回答。	A	・教師の意識が児童も意識につながっている。児童には既習を使えたことを価値づける声かけを継続していく。 ・今年度達成できなかった児童を、級外も含めて学校全体で支援していく体制や時間の確保を計画的に行う。 ・児童の実態を見極めた目標冊数を設定したうえで今年度の効果的であった取り組みを続けていくとともに、不読傾向にある児童への声かけが必要である。
		【基礎基本の定着】 計画的に基礎基本の定着を図る。	教務	〈成果指標〉 学力向上プランにのっとり、計画的に実践し、定着を図る。	学期末テスト（漢・計） （目標点達成率） A：95%以上 B：85%以上	学期末テスト95%1・2・3年生ではほぼ100%近い達成率で漢字・計算共に定着を図ることができた。	A	4年生以上で90%を達成できないクラスがあったので、2学期は昼学で個別指導の時間を確保していく。	学期末テスト99%1学期と同様に1・2・3年生ではほぼ100%近い達成率で定着を図ることができた。	A	
		【語彙力の向上】 学校及び家庭での読書活動の推進を通して語彙力の向上を図る。	学習指導	〈成果指標〉 さまざまな読書活動の取組を通して、児童に目標の週1回図書室へ行くことを達成させる。	目標達成率 （集計結果） A：95%以上達成 B：80%以上達成	クラスの図書室利用は、6月は週1回のみの利用で71%、7月は週1回＋休み時間週1回の利用で85%となり、増えている。、	B	引き続き、週に1回以上は図書の時間をとるよう努める。また、2学期は貸し出し目標冊数を設定し、児童が進んで本を読めるよう意識させていく。	目標冊数の達成者は86%だった。アンケートでは16%が本が好きではないと回答している。	B	
3	徳（友達大好き）	【安心・安全な学校作り】 道徳の時間では「A善悪の判断、自律」「B親切、思いやり」「B相互理解、寛容（高学年）」の価値項目に重点を置く。	道徳推進	〈成果指標〉 各学期に1つ、重点内容項目を設定し、他者の考えに触れる場のもてる授業を行う。	他者の考えに触れた （実施状況） A：できた（100%） B：十分できた（半数以上）	年間指導計画チェック表（1学期分）100% 全学級が重点内容項目について1時間以上の授業を実施した。	A	2学期は1学期に取り組まなかった重点内容項目について1時間以上必ず授業を実施する。	1学期に取り組まなかった重点内容項目について全ての学級で1時間以上授業を実施した。	A	・次年度も全職員で共通理解をはかり、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む。 ・「～さんのおかげで考え方が拡がった。」「それが間違いであることがはっきりした。」といった、自己効力を感じられる声かけを持続的に行う。 ・自分の表現が、他の人の考えの役に立ったということが視覚的に分かる場面設定を授業の中に取り入れていく。
		【自治・自主の精神の育成】 特別活動を通して、自分の思いを伝え合い、他者を理解しようとする心情を育てる。	生徒指導	〈成果指標〉 学級活動などの発信する場を通じ、伝えること、聴くことの大切さを育むことのできる指導を行う。	大切だと思っているか （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート88%グループ・ペア活動が制限させているが、聞くことでつながることができているのではないか。	B	安心して自分の思いを伝えられる学級になるよう反応しながら話を聞くことを意識させていく。	児童アンケート87%学習指導前から授業があった「反応しながら聴く」を担任が声掛けを続けることで、児童に意識付けていく。	B	
		【自己肯定感の高まり】 学校生活で、児童の活動に対して価値づけをすることで自己肯定感を高める。	生徒指導	〈成果指標〉 具体的場面を見つけて、「粘り強さ」「協力性」「自主性」の価値づけをする。（ほめる、認める、気付かせる）	学級、学校が楽しい （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート86%新しいルールの制限の中で、子どもたちはよりよい関わり方を見つけようとしてるようにみられる。	B	意識的に他者評価を得る場面をつくり、大人からだけでなく、児童同士で良さを認め、自分の良さに気づけるようにする。	児童アンケート83%学校行事を通して、自分の活動を友達、他学年から認められることで児童が自分を受け入れられる言動が見られた。	B	
4	体（自分に挑戦）	【基本的生活習慣の確立】 児童自身に健康に関心を持たせ、基本的生活習慣の確立を図る。	保健体育	〈成果指標〉 メディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に努める児童の育成を図る。	めあてを守れた （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート84%高学年ほど、数値が下がる傾向がある。高学年を中心にメディアとのつきあい方を指導する。	B	保護者アンケートの結果（86%）とほぼ同じ数値であることから、今後も、児童と同時に保護者への呼びかけを続けていく必要がある。	児童アンケート91%達成率が上がっている。保護者アンケートでも90%を超えており、家庭の協力も得られている。	A	・メディアに関するルールは、かなり定着してきている。しかし、課題のある児童も見られるので、個別に指導していく必要がある。 ・廊下を走る児童が減少しているので、今後はよりよい歩き方（右側歩行）に向けて取り組んでいきたい。 ・「あおっこスポーツマスター」は、内容的には充実しているが、名称が浸透していないようだ。認定書を発行するなどして、知名度をあげていく。
		【安全意識の向上】 交通安全・生活安全・災害安全の取組を充実し、子ども自身の安全意識を高める。	保健体育	〈成果指標〉 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を徹底し、意識の向上を図る。	めあてが達成できた （児童アンケート） A：80%以上 B：70%以上	児童アンケート94%コロナ対策の影響もあって、廊下を走る児童が減少した。避難訓練も静かに行えた。	A	安全な歩行に加え、今後も、ソーシャルディスタンスを保ちながら、友だちと安全に関われるように指導を続けていく。	児童アンケート94%廊下を走る児童は少なくなった。しかし、2，3人で横に広がって歩く姿が見られる。	A	
		【体力向上】 「あおっこスポーツマスター」（鉄棒・水泳・縄跳び）に取り組み、体育授業を通して、体力の向上を図る。	保健体育	〈成果指標〉 鉄棒・縄跳びで、各自に合ためめあてを設定し、その達成に向けて、授業の工夫をする。	めあてが達成できた （児童アンケート） A：90%以上 B：80%以上	児童アンケート77%運動が制限されていることもあり、意欲は低下している。2，3学期に向けて、少しずつ意識の向上を図るべき。	C	運動に制限があり、十分な取り組みができなかった。ただ、準備運動に縄跳びを取り入れたので、今後の縄跳び月間には、より意欲的に取り組めると期待している。	児童アンケート83%2学期後半に縄跳び大会を行ったり、鉄棒月間を設けたりしたため、児童の意識は少し高まってきた。	B	
5	家庭・地域との連携	【コミュニティ・スクールの充実】 連携を密にし、活動のより一層の充実を図る。	教頭	〈成果指標〉 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、CSディレクターとの連携を深めることで、学校支援の充実を図る。	学校支援の様子 （実施状況） A：計画的に行われた B：ほぼ計画的に行われた	コロナ禍で計画を立てることが困難な状況であったが、学習サポートや消毒サポート等の支援が行われた。	B	今年度はコロナ禍でできることを計画的に行う。そのために現状を把握し、どんな支援が必要か、職員やCSの意見を取りまとめ、実践していく。	コロナ禍の中で計画できたことは行えた。また、消毒や検温サポート、3学期は昔遊びの先生などの支援が充実できた。	B	・学校運営協議会の活動やPTA行事の活動が今年度コロナの影響で制限されたことを念頭におきながら来年度のい計画を連携をとりながら行う。 ・家庭との連携については学習指導部や保健体育部と連携をとりながら学校と家庭をつなぐ取組を行う。
		【保護者連携】 保護者と児童の課題を共有し、よりよい家庭生活習慣の確立に努める。	教頭	〈成果指標〉 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけた （保護者アンケート） A：90% B：80%	保護者アンケート86%86%の家庭でメディアのルールがあり、守るよう働きかけている。	B	家庭学習の取組、メディアコントロールの取組、非行被害防止講座などを通し、保護者、PTA、地域とも連携しながら取り組む。	保護者アンケート93%継続して取り組んでいくことで、児童も家庭も意識してきた。	A	
		【PTA活動の活性化】 PTA活動の活性化を図ることで、学校の教育活動への理解と協力を得る。	教頭	〈満足度指標〉 各専門委員会が目標を立て、それに合致した活動を計画的に行う。	協力できた （保護者アンケート） A：90% B：80%	保護者アンケート82%コロナ禍でPTA活動がほとんど行われてはいないが、意識は持っている。	B	コロナ禍で例年通りの活動はできないが、各専門委員会が工夫して行えるように働きかける。また、コロナ禍だからこその協力を発信していく。	保護者アンケート83%コロナ禍でPTA活動が制限されたが、できる範囲での活動は協力的に行えた。	B	

中間評価を受けて
地域で危ない自転車の乗り方で乗り回している児童がたくさんいる。安全教育や指導が必要であるとの意見があった。
挨拶が昨年度よりできていない。コロナの影響もあるかもしてないが、せめて挨拶されたら返してほしい。家庭も大事だが、学校の指導も大切である。との意見があった。
学力向上ロードマップについて不十分なところを具体的な方策として明記していくと、より検証→改善がされていくのではないか、との意見が出された。

最終評価を受けて
コロナ禍での取組の工夫が伝わった。学校はこの経験をいい方向に生かしてほしい。地域やこの会は何ができるのかを前向きに考えるいい機会である、というご意見をいただいた。また、さまざまな養育活動の工夫の中で、縄跳びの取組は効果的であった。本校の課題である書く力、考える力をつけていくためには、家庭でもっと褒めて、自信をつけさせることが大事ではないか、というご意見があり、取組について今後検討していく。学校は地域あっての学校である。地域の力を借りて安心・安全に向かうということを共有できた。